

# 令和2年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立熊谷女子高等学校)

目指す学校像	1 自主自律の精神と豊かな人格を有し、次世代の社会をリードする心身ともに健康な生徒を育成する。 2 地域に信頼される伝統ある進学校として、生徒の第一志望の進路を実現させる。
--------	---

重点目標	1 豊かな人間性と社会性を育む教育を展開し、高い志を持った次世代の社会を担う女性を育成する。 2 S S H事業を継承する「世界をリードする科学技術人材育成事業」などの取組を活かすとともに、「教育課程研究事業」の継続・推進による質の高い授業を行い、生徒の学力を一層向上させる。 3 きめ細かな進路指導や学習指導に取り組み、生徒一人一人の第一志望の進路を実現させる。 4 伝統ある本校の生徒としてふさわしい生活習慣を身に付けた、自らを律し行動できる生徒を育成するとともに、積極的に地域に貢献し信頼される学校づくりを行う。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

学校自己評価				学校関係者評価			
年度目標				年度評価 (2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	観点	次年度の課題と改善策
1	生徒は学習、部活動、委員会、生徒会活動、学校行事など学校生活全般に積極的に取り組む姿勢がある。 次世代のリーダーとして高い志を持ち、主体性を育成するため校内の諸活動とともに地域貢献を推進する必要がある。	次世代のリーダーとしての素養の向上	①授業、学校行事、委員会、生徒会活動、部活動の推進(全教職員) ・生徒が主体的に学ぶ授業の展開に努める ・学校行事に携わる委員会や教養(図書委員会、人権教育委員会)、風紀(生活委員会)等に関する各種委員会の更なる充実 ・部活動とおとした志の育成やリーダーとしての素養の育成 ②地域との連携事業やボランティア活動の推進(生徒会・特活部・科学教育推進委員会・部活動顧問・家庭科) ・小中学校への学習支援 ・部活動における小中学校との連携 ・部活動や委員会等による地域への貢献 ・保育・福祉施設等でのボランティア	①生徒が主体的に取り組むよう、授業、学校行事、委員会活動、部活動を運営できたか。 ・リーダーの素地を育成することができたか。(今後、生徒アンケートにより各項目の達成度を検証する) ②連携事業により幅広く地域に貢献できたか。 ・生徒の社会性を育むことができたか。 ・生徒がリーダーシップを発揮できたか。(生徒へのアンケートや連携機関へのヒアリング等から達成度を検証する)	学校生活を通して生徒は学校生活全般に主体的に取り組んでいた。コロナウイルス感染症拡大により学校行事の開催には制限があったが、工夫を凝らし新たな形で実施することができた。 ①授業、学校行事、委員会、生徒会活動、部活動の推進 ・体育祭では競技の見直し、文化祭・予備会ではICTを活用したリモートによる発表配信を行った。 ・感染症対策に関する新たな業務が加わったが、継続した委員会活動を行った。 ②コロナ感染症対策を取りながら新たな形式での地域連携事業を行った。 ・福祉施設との交流や交通安全マスコットの配布(小中学校・市役所) ・美術部による近隣ホテルロビーでの絵画展示 (①、②今後年度末に、生徒アンケートを実施予定)	A	・収束が見えない中で今後も感染症対策を講じつつ、学校行事、委員会や生徒会活動を通し生徒の主体性や積極性を養い、リーダーとしての素養を高める。 ・感染症対策をしながら地域連携事業やボランティア活動を継続し、生徒の心身を育成する。
2	国や県の事業を活用するとともに昨年度指定を受けた教育課程研究事業(大学進学指導拠点校)の取組を活用し、質の高い授業を実践している。 昨年度までの取組はもとより今年度新規事業である「世界をリードする科学技術人材育成事業」を活かしつつ、次世代の社会に不可欠な思考力・判断力・表現力等の向上を目指した授業改善を行う必要がある。	授業改善の推進	①新学習指導要領に対応した授業改善への継続的研究(企画委員会・教務部) ・職員研鑽会会の充実(研修会や公開授業週間の充実) ②教育課程研究事業(企画委員会、教育課程委員会) ・進路指導拠点校間での連携による研究 ・新学習指導要領での教育課程の完成 ③「世界をリードする科学技術人材育成事業」と探究活動の推進(企画委員会・科学教育推進委員会・探究学習運営委員会) ・「世界リード事業」や探究活動の充実と内容の深化 ・授業等とおとした思考力・判断力・表現力等の育成 ④ICT機器の積極的な活用(各学年・教科担当・教務部・情報科など)	①外部の教員研修、先進校視察等への参加や、校内研修による授業の工夫・改善を行うことができたか。教員相互による授業見学期間を3回行うことができたか。 ②生徒の資質能力を引き出す新教育課程編成は完成したか。 ・教員の新教育課程に対する意識向上が図れたか。 ③生徒の探究成果発表を効果的に実施することができたか。 ・生徒が主体的・対話的で深い学びを実践しているか。 ④今年度から運用のGoogle Classroom等のICT機器を活用できているか。	新学習指導要領に対応するべく継続して授業改善を推進した。 ①授業改善の研究 ・未来学び研究開発員2名。 ・ICT先進校視察(2校)、ICTを活用した教員研修を実施。 ・教員相互の授業見学期間を実施。 ・教室用プロジェクター、タブレットの活用。 ・感染症対策をしたアクティブラーニングの実施。 ②教育課程研究事業の活用 ・新教育課程の完成。 ③「世界をリードする科学技術人材育成事業」と探究活動の推進 ・科学の甲子園予選出場や科学教育振興会出品等を行った。 ・総合的な探究の時間(1年)探究成果発表会(2/1)の実施。 ・授業等により思考力・判断力・表現力の育成を推進した。 ④ICT機器の積極的な活用推進 ・全教員にChromebook貸与した。 ・授業のmeet配信など、タブレットやGoogle Classroom等ICTを適時活用した授業を展開した。	A	・新学習指導要領の実施に向けた観点別評価の対応等の授業準備が必要である。 ・年次単行する総合的な探究の時間や人文科学探究、新教育課程での探究科目の充実を図り、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 ・令和3年度入学生のタブレット導入も決定し、今後一層のICT機器の活用推進を図っていく。
3	生徒一人ひとりに対する細やかな指導により、地元国公立大合格者が伸びるなど、成果を上げている。 今年度も引き続き生徒の第一志望実現を見据え、新入試への適切な対応を行うなど進路及び学習指導の工夫改善を行う必要がある。	進路指導の充実と進学実績の向上	①きめ細やかな進路指導(進路指導部・各教科担当) ・一人ひとりに寄り添う進路相談の実施 ・長期休業や平日に実施する多彩な補習 ②高大接続改革等への対応策の検討(高大接続改革対応委員会・科学教育推進委員会) ・新入試を踏まえた対応策の検討 ③進路指導に係る最新の情報収集及び情報共有(進路指導部) ・新入試への対応策の検討および実施 ・教職員間の情報共有	①進路選択につながる講演会等を実施できたか。 第1志望の進路実現50%以上、現役合格目標：国公立大学60名、早慶上理ICU・G-MARCH計80名 ②大学入試改革等への対応策の検討は進んだか。 ③高大接続改革研修会等に参加し情報共有し指導に活かされたか。	第一志望の進路実現に向け、生徒の進路研究を進められた。 ①きめ細やかな進路指導 ・キャリア教育講演会、大学説明会等、様々な場面で進路意識を育成した。 ・土日を除いた夏季補習や早朝、放課後補習の充実や小論文などの個別指導(124名)を実施した。 ・お茶の水女子大公募入試合格(1名)、国公立大推薦入試合格は9名(昨年同時期18名) ②高大接続改革等への対応策の検討 ・2学年による共通テスト研究と職員研修の実施 ③最新の情報収集と情報共有 ・1学年3回以上の模試分析会や職員研修会により、課題の共有を行った。	B	・生徒一人一人の主体的な取組を支援し、第一志望を実現させる。 ・きめ細かな学習指導をしているが、人に頼らず主体的な学習を身につけさせることも課題である。 ・大学共通テスト分析と指導方法を研究する。
4	本校生徒は自らを律し、行動している。今年度も生徒の資質を一層伸ばすため、個々に寄り添った指導や支援を行う必要がある。 本校の通学圏に在籍する中3生の割合は昨年度比-4.5%と生徒募集も困難が予想される。地域の期待を担う伝統校としての魅力の更なる発信により、生徒募集の一層の充実を図る必要がある。	生徒指導の充実	①組織的な整容指導と挨拶励行指導(生徒指導部・渉外部・全教職員) ②教育相談の充実(担任・校内支援委員会) ・一人ひとりに寄り添う教育相談の実施 ・専門機関と連携したきめ細やかな個別指導	①全教職員、PTAの協力による組織的な指導ができたか。 ②校内支援委員会を中心に個別の生徒の課題解決に向けた支援ができたか。	情報共有を行いながら通年を通して生徒支援を行った。 ①朝の正門での身だしなみ指導、挨拶運動を計画的かつ組織的に実施した。 ②担任、学年、養護教諭など関係者の円滑な連携を維持するとともに、S Cによる教育相談を年10日設定、SSWにも来校してもらい生徒支援を充実した。	A	・引き続き生活委員と教職員で協力をし、身だしなみ指導・挨拶運動を継続し、品格ある熊女生の育成に努める。 ・個々の生徒に合わせた支援を継続する。
		広報活動の工夫改善	①地域・中学生に本校の魅力の発信(教務部・全教職員) ・学校説明会や学校見学会の開催 ・中学校や塾等主催の説明会へ積極的参加 ②学校ホームページを活用した情報発信(全教職員)	①本校の魅力を十分発信し、入試倍率に反映できたか。(昨年度1.17倍) ②学校ホームページの更新数やアクセス数を増やすことができたか(昨年比)。	新型コロナウイルス感染症拡大により活動が制限される中、本校の魅力を積極的に発信した。 ①本校の魅力の発信 ・従来の学校説明会・見学会を新たな形式の学校見学ツアーとして実施し、参加者アンケートでも高評価を得た。 ・本校進学希望(12/15調査)は0.99倍。(昨年は1.22倍) ②学校ホームページのアクセス数が、1日平均約3,000件で昨年(2,800件)よりも増加した。	A	・外部に向けて熊女の魅力発信を継続するとともに本校進学希望者に結びつくように工夫の必要がある。 ・今後ともホームページの更新を効果的に行う。

学校関係者評価	実施日	令和3年3月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・工夫を凝らした体育祭、文化祭、パークマラソン等の学校行事の実施に敬意を表する。「次世代のリーダー」に必要な素養について、さらに検討を望む。 ・小中学校への学習支援が実施できなくて残念。 ・コロナの収束が見えない中だが、人と人との関係づくりが次世代リーダーの育成に不可欠である。 ・コロナ禍の事態に対応した学校行事、委員会、生徒会活動を行った点で生徒の自立が見られた。一方で、ディスカッション能力を養う場が少なかった。 ・感染防止対策をとりながらの部活動について、生徒それぞれがしっかりと考えながら取り組んだ。	